

6月から10月は

川の水が増えやすい出水期

～集中豪雨や台風の多い時期です～

《問》防災対策課 内線4202

台風や大雨は、ある程度予測することができます。

防災気象情報や市の避難情報に注意し、早めの対応を心掛けましょう。

■災害から身を守るために

ポイント1 どこに避難するかを事前に知る!

○最寄りの避難場所や安全に避難するための避難路を確認しておきましょう。

○住んでいる場所が土砂災害の危険箇所か、自宅の内外に危険な所がないか等を確認しましょう。

▼インターネットで確認できます

新宮市 Web版ハザードマップ(<https://shingu.nigedoki-map.com>)

県ホームページ「わかやま土砂災害マップ」(<http://sabomap.pref.wakayama.lg.jp>)



ポイント2 いつ避難するかを知る!

○大雨等で災害が発生する危険性が高まったときには、市の避難情報に注意し、早めの対応を心掛けましょう。遠くの親戚や知人宅へ避難する場合は、避難途中に災害に遭わないよう、避難情報を待たず、テレビやラジオ、インターネット等から情報を集め、発表される各種注意報、警報等を参考に行動しましょう。

気象情報の
小まめなチェックが
重要です

▼避難情報は、防災行政無線放送のほかテレホンガイド(フリーダイヤル)で確認できます

☎0120-506-043 に電話をかけると、無料で聞くことができます。

▼気象情報は、テレビやインターネットで確認できます

テレビの「dボタン」、県砂防課または気象庁のホームページをご覧ください。

▼氾濫の危険が高まったときに河川監視カメラの映像を閲覧できます

市では、佐野川、高田川に河川監視カメラを設置し、大雨・洪水警報発表時等、河川氾濫の危険が高まった場合に、河川監視カメラの映像を市ホームページで公開しています。

■風水害時に優先して開設する避難所

新宮・高田地区

丹鶴ホール 保健センター
福祉センター 王子ヶ浜小学校
下田隣保館 橋本隣保館
佐野会館 三輪崎会館
蜂伏会館 新高田会館

熊野川地区

総合開発センター 熊野川小学校 鎌塚集会所
東集会所 赤木集会所 日足相須集会所
能城集会所 四滝集会所 玉置口出張診療所
東敷屋集会所 山手集会所 篠尾集会所
熊野川園(災害時協力施設)

※災害の状況によっては、開設する避難所(指定緊急避難場所)を段階的に増やします。
その際は、防災行政無線でお知らせします。

ダム情報・発電所運転予定をフリーダイヤルで確認できます

《問》電源開発(株)西日本支店十津川電力所 ☎0735-47-2019

新宮川水系の各ダム(池原・七色・小森・風屋・二津野)の放流状況と小森発電所・十津川第二発電所の運転予定を24時間フリーダイヤル(無料)でお知らせしています。

新宮川水系各ダム情報 ☎0120-30-2425

小森発電所・十津川第二発電所運転予定 ☎0120-20-1914



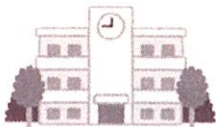
避難所に行くことだけが避難ではありません!

～「避難」とは「難」を「避」けること～

避難には次の4つの行動があります

行政が指定した避難所 への立ち退き避難

小・中学校



公民館



自ら携行するもの

- ・マスク
- ・体温計
- ・うちわや扇子
- ・食料(2食分程度)
- ・飲料水
- ・常備薬、持病薬 等

安全な親戚・知人宅 への立ち退き避難

普段から災害時に避難することを相談しておきましょう。

※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。

親戚・知人宅



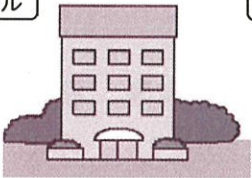
普段から
どう行動するか
決めておき
ましょう

安全なホテル・旅館 への立ち退き避難

宿泊避難支援事業を利用し、ホテルや旅館への避難を検討しましょう。

※詳しくは今月号の折り込みチラシに掲載

ホテル



旅館

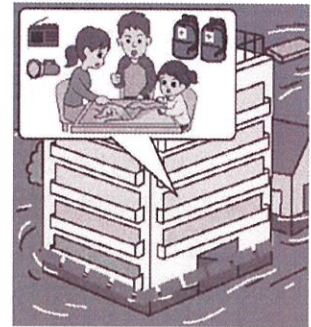


屋内安全確保

ハザードマップで下記の「3つの条件」を確認し、自宅にいても大丈夫かを確認しましょう。

■■■想定最大浸水深

※土砂災害の危険がある区域では立ち退き避難が原則です。



「3つの条件」が確認できれば浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です

①家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない(入っていると…)



流速が速いため、木造家屋は倒壊するおそれがあります。



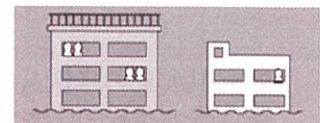
地面が削られ家屋は建物ごと崩落するおそれがあります。

②浸水深より居室が高い

3・4階	5m～10m未満
2階	3m～5m未満
1階	0.5m～3m未満
1階床下	0.5m未満

③水がひくまで我慢でき、水・食糧などの備えが十分

水、食糧、薬等の確保が困難になるほか、電気、ガス、水道、トイレ等が使えなくなるおそれがあります。



豪雨時の屋外の移動は車も含め危険です。

やむをえず車中泊をする場合は、浸水しないよう周囲の状況を十分に確認してください。